

妊娠糖尿病ってなんですか？

妊娠糖尿病とは、妊娠中にはじめて発見された糖尿病には至っていない糖代謝(血糖値)の異常です。

どうして妊娠糖尿病になるの？



- ★赤ちゃんの主な栄養はお母さんからのブドウ糖です。
お母さんは胎盤を通して赤ちゃんへ栄養(ブドウ糖)を送っています。
- ★妊娠週数が進むにつれて、赤ちゃんは大きくなっていきます。
お母さんの体の中では、インスリン(血糖値を下げるホルモン)が効きにくい状態となり血糖値を上げるよう自然に変化していきます。
その結果、成長に必要な十分なブドウ糖が赤ちゃんに届けられます。
- ★妊娠糖尿病とは、血糖値が基準を超えて高くなってしまいう状態です。
妊娠前には血糖値が正常であった場合でも、妊娠糖尿病を発症する可能性があります。



妊娠糖尿病は、お母さんのからだの状態や変化などを教えてくれる赤ちゃんからの大切なサインです。
お母さんと赤ちゃんが安心・安全に出産を迎えられるよう、
妊娠中は定期的に内科受診をして経過(血糖値)をみていくことが大切です。

【妊娠糖尿病による影響】

お母さんへの影響



早産
羊水が増える(羊水過多)
難産
妊娠高血圧症候群
将来の糖尿病発症

赤ちゃんへの影響



巨大児
出産後の低血糖
将来の肥満

妊娠糖尿病は妊娠中だけ気を付けていれば良いですか？



★妊娠糖尿病と診断された女性は、妊娠中に血糖に異常がなかった妊婦さんに比べ、将来糖尿病になる可能性が **7.43 倍高い**といわれています¹⁾。

★出産後は一時的に血糖値が正常に戻ることも多いですが、将来の糖尿病発症リスクを考えて、定期的な検査を行うことが大切です。(浜松市では、出産後5年間は年1回の血糖検査の実施を推奨しています。)



出産後は1～3か月以内に医療機関で血糖値の検査を受けましょう！
糖負荷試験の結果により、今後の受診スケジュールを医師と相談していきます。

10年・20年後のお母さん自身の健康も考えて、定期的に検査を受けてご自身の健康を守っていきましょう。

1) Lancet 2009 ; 373:1773-1779